

備元は起きる前から

灯明寺中学校

三年

笠井かさい

綾乃あやの

平成三十年七月、台風七号が子び梅雨前線

の影響による集中豪雨が西日本から東日本に

かけての広い範囲を襲った。その中でも広島

県では、土砂崩れによる被害が相次いだ。広

島県安芸郡熊野川角では、住宅の裏山が崩れ

て斜面沿いの住宅に押し寄せ、広島市安芸区

矢野東で、土砂崩れにより約二十棟の住宅が

倒壊した。広島市の災害現場では花崗岩が風

化した真砂土を含む土砂が多く見られ、平成

二十六年に広島県で発生した土砂災害と同様

に真砂土が被害を拡大させる一因になったそ

うだ。広島県の死者、行方不明者は百十四人

と特に多く、全体的な死者数は二百人におぼ

り、多くの家が全壊、半壊してしまっような

災害となった。

この災害からしばらくたった今でも、仮設

住宅に住む人や、家の泥などをとる作業を猛

暑の中続けている人たちがある。今年の夏は

特に暑いために、作業が暑くて進まないというところもあるそうだった。

私は、福井県でもこのようにな災害が起こったことがあるのかと疑問に思い調べてみた。そうすると、平成十六年七月に起きた福井豪雨にたどりついた。この福井豪雨が起きた頃わたしはまた一歳にもなっておらず、そのようになことがあったことが、この作文を書く機会を通して、福井豪雨についても、と知ろうと思うようになった。

この災害は、九頭竜川水系の足羽川や清竜川の九箇所が堤防が決壊し、福井市や旧美山町などを中心に、多数の浸水害が発生した。

私は、福井豪雨を体験した父に話を聞いた。その日はとても雨が降っている日だった。急に会社の人から電話がかかってきて、会社に一階が浸水した。今すぐ来てくれ。と言われたそうだった。会社に行ってみると、車がとめてあった。一階は、車の窓をこすぐらいの水があり、父はとてまびくくりしたと話し

ていた。次の日は、清掃作業に追われとも
大変だ。たとししみじみと語っていた。

このような災害が起ると、地域の人たち
やボランティアの人手と協力することが大
切になり、また、被害を大きくしなすために
も、自分ができることを災害が起る前にし
ておかなければならない。

福井豪雨では全国各地から六万人以上のもの
ボランティアの方々が駆けつけ、くたすた
そうだ。主に家屋や床下の泥出し、清掃など、

人海作戦が行われた。ボランティアの方々に
助けってもらった人たちは、たくさん
ボランティアをもらって、ボランティアの方々に
ものほたくさんあると思うが、ボランティア
の方々からもらったものもたくさんあるだろ
う。

今の福井県は、地域の人たちやボラン
タリーの方々のおかげで元の状態に戻すこ
とができた。だが、次はいつこのような災
害が起るのかは予測ができていない。だから、

きる前にわたしたちが
できることはなん
だろうか。

新聞の記事には「防
災は事前の段取りが
重要。起きてしまっ
たら遅い。このまう
に災害が起きてから
では遅いのだ。今ま
でも何人もの人たち
がこうしたことで、
大きな被害を免れ
ればよいのだろうか。

まず、自分が住む地
域と自宅のリスクを
知る。事前の段取り
とは、どのようにな
る。事前の段取りと
は、家族の命を守る
には情報が来るのを
待たず、自分から取
りに行くこと。地震
や洪水など災害別に
危険度を示した「ハ
ザードマップ」で自
宅周辺にどのような
被害が想定されるか
を知っているのか。知
っているのか。知って
おくことが大切だ。
私の住んでいる地域
の「ハザードマップ」
を見てみる。九頭竜
川が近いため、浸水
深が2メートルから
5メートルとなってい
る。部分まで水が来
るかもしれない。こ
の「ハザードマップ」
を見たとき、

も警いた。

「ガードマップ」の確認の後にあることは、地理的な条件と、自宅の構造を考えた上で、

避難情報のどの段階でどこへ逃げられるか、ある

いは自宅に残す方が安全かを具体的に家族で話し合わなければならぬ。

今までわたしたちは、たくさん避難訓練を行っていたが、この作文を書く前までは、

避難訓練は本当に起きているわけでは無いし、

とさえ言えなかった。本当に起きている

しよ。たまたまにどうあるかなどあまり聞いて

いなか。たまたまが物か。そのため、今

回調べてみて、それでほめた。気がかたれ

た。これからは、調べて学んだことをたくま

んの人に伝え、自分の命を守り、他の人たちは

の命も守り、災害に与る被害を増やさないよ

うにしていきます。